地域・コミュニティ活動助成

NPO法人 えき・まちネットこまつ

山形県川西町

食文化の継承と環境保全によるSDGs活動で築く コロナ後のまちづくり人づくり

2021年11月、地域内の農業高校生が小学校で出前授業。伝統食文化「むくり鮒」を題材にした食育人形劇を披露した

団体設立経緯

昭和50年代、旧国鉄米坂線羽前小松駅の無人化計画を知った住民は存続運動を展開し、町が支援する有人の町民駅がスタートしました。その後、少子化などによる利用客の減少を受けて再び無人化が検討されました。この時、有人駅存続を願い行動した山形県立置賜農業高校生は、2006年から町民駅の存続と利用活性化を目的とした「えき・まち活性化プロジェクト」を立ち上げ、2010年には町民を巻き込んだ住民主体のまちづくり団体の設立につながりました。

活動概要と活動対象範囲

山形県川西町および周辺市町の住民に対して、公共交通の再生や市街地の活性化を図りながら、まちづくり、環境保全、観光振興、次世代育成、国際協力、社会福祉、社会教育の推進などの事業を多様な団体との協働によって広域にわたり展開し、地域活性化や地域住民の文化向上への寄与を活動目的とします。また、隣接県や首都圏との交流活動を通して、地元農業高校生や若者と連携したまちづくり、次世代育成において実績があります。

活動に至った理由や背景

少子高齢化や人口激減に加え、多発する地震や風水害、さらに新型コロナウイルス感染症のまん延などの災いが農村を直撃し、疲弊した集落は将来への希望や目標を失いかけています。その中で、本町の光明となっているのは当NPO法人と高校生が取り組む活動です。

伝統食文化「**むくり鮒**」の伝承、環境保全や生態系の維持への取り組みは、若者と大人世代の連携、農業と水産、農村と都市部の連携として拡大してきました。さらなる発展のため、SDGsの「海の豊かさを守ろう、陸の豊かさも守ろう」や、海山連携のモデルとして位置付ける必要性が生まれてきました。

置賜農業高校と連携して、鮒の養殖から加工までを実践した。6月、越冬した養殖鮒を水揚げし（上）、再度養殖用の水槽に放つ（中）。さらに育てた鮒を使って加工講習まで実施（下）

活動内容と成果

2021年4月から実施体制づくりをスタートさせ、置賜農業高校生との鮒の養殖、むくり鮒の加工、缶詰開発を活動の軸にしながら、本事業を開始しました。6月から、鮒などの生態系を育む里山の保全や住民連携に向けた「里山守り隊」の設立、ビオトープの造成、生態系調査を展開。SDGs講座も組み入れながら、SDGs活動に取り組むまちづくり、人づくりに挑み始めました。

7月になると、新型コロナウイルス感染症の拡大により、講座や交流活動の実施に制約が生まれ、事業の延期が続きました。そのような状況下でも、むくり鮒を題材にした食育人形劇の製作公演などの出前授業を成功させました。8月にはエコロジー資料館の開館に向けた準備が整い、9月には置賜農業高校を含めた、まちなかやエコ資料館を紹介するエコツーリズムを実施することができました。

10月になると新型コロナ感染症の拡大がようやく落ち着き、SDGs講座や里山守り隊、エコ資料館のジオラマ製作などの人づくり事業に取り組むことができました。高校生のモチベーションが向上すると共

（上）月1回のペースで実施した里山見守り隊の活動
（中）5月には子ども農業体験を実施
（下）7月に開催した第1回SDGs講座

に、住民との連携活動が大きく前進しました。

11月～12月は、この事業を最も活発に展開することができました。まず人形劇や食育をテーマにした高校生の出前授業を2回開催。特にむくり鮒のふるさと、里山にある玉庭小学校での出前授業は児童の興味・関心をひきつけました。22年度に開催予定である「全国へき地教育研究大会」での共同研究を、田宮健一校長から依頼されました。

また、むくり鮒缶詰の開発に向けた施策や海山連携を、福島県浪江町やいわき市と実施して、今後の交流内容について協議・検討しました。この時期の事業展開によって、まちづくり、人づくりは大きく前進しました。

1月～3月は、再び新型コロナ感染症オミクロン型のまん延によって、様々な事業に支障が生じました。そのなかにおいても、鮒の養殖やむくり鮒の文化伝承、里山保全や生態系の維持に関する取り組みを前進させました。また、エコ資料館の観覧者も徐々に増え、厳しいコロナ禍にありながら海山連携やオンラインによるSDGs講習も開催し、人づくりを積極的に展開しました。3月には成果報告会も開催し、約100名の来場者を迎え好評を得ました。

課題と解決方策

伝統の食文化「むくり鮒」の伝承と担い手育成は、特に置賜農業高校生との連携によって大きな成果が得られました。彼らの発表は農業高校の甲子園といわれる日本学校農業クラブ東北連盟大会で最優秀賞を受賞。全国大会に進出して、全国的な評価を得ました。

一方、鮒の養殖技術継承や多様化による産業活性化は、産業として確立できる鮒の生産量確保が前提であり、高校生の試験的養殖やNPO法人の試験的加工では限界があることが実証されました。淡水魚のブランド化を目指した海山連携による缶詰製造は実現したものの、ブランド化には至りませんでした。上記生業づくりによる若者定住を促すためには、町やJAなどの支援や助成が必要です。

エコロジーや里山保全による環境学習の強化と担い手づくりは、置農生の活躍によって成果を得ました。SDGs活動の理解と普及によって「格差是正」「環境保全」の意識向上は、小中高校生の活動から、徐々に大人世代の活動へと移行し始めています。

高校生の環境出前授業による持続可能な担い手づくりについては、教材の製作からスタートした置農生の頑張りが素晴らしいものでした。特に手づくり人形劇やジオラマ製作は、小学生の理解や意欲向上に寄与しました。一方、農村都会交流による環境ボランティアの底辺拡大は、コロナ禍により目立った成果が上げられませんでした。

9月に開設したエコロジー資料館は、コロナ禍により特に小学生の来館が想定を下回り、今後の利活用促進が望まれます。

今後の予定

養殖鮒数の目標5000尾は、鮒数では達成できたものの成育が伴わず、加工むくり鮒100パックや加工缶詰数500缶は達成できませんでした。養殖技術の向上や生産拡大が喫緊の課題であることが明確になりました。

里山守り隊活動への参加者延べ100名、ビオトープ造成参加者延べ200名の目標はそれぞれ達成できました。置農生以外の参加者の募集を積極的に進めていきたいと思います。

農村都会環境ボランティア講座への参加者延べ100名、SDGs講座延べ200名、高校生の出前授業参加者延べ500名の目標は達成できたものの、海山連携事業参加者は20名程度であり、大人世代の巻き込みが必要です。エコロジー資料館の入場者数は延べ2000名の目標に対して100名程度に留まりました。今後の利活用を進めます。

（左上）8月に実施した高校生の出前事業　（右上）12月、福島県浪江町での第1回海山連携事業　（左下）12月の第3回SDGs講座は、愛知大学とオンラインで実施　（右下）9月に開設したエコロジー資料館

特定非営利活動法人えき・まちネットこまつ

2010年2月設立、14年1月法人化／メンバー数：85人／代表者：江本 一男（えもと・かずお）

☎0238-42-2533　0238-42-2730　eki-mn-7@ms5.omn.ne.jp

www.npo-ekimachi.org　www.facebook.com/ekimachi1644/

私たちは、山形県川西町および置賜地域の住民を対象に、公共交通や市街地の再生、まちづくり、環境保全、次世代育成などの事業を多様な団体と協働して実施し、地域活性化や文化向上に寄与することを目的とします。